

ポリエチレン管接合部分の水密性の確認をするため、検査【気密試験】を実施しました。



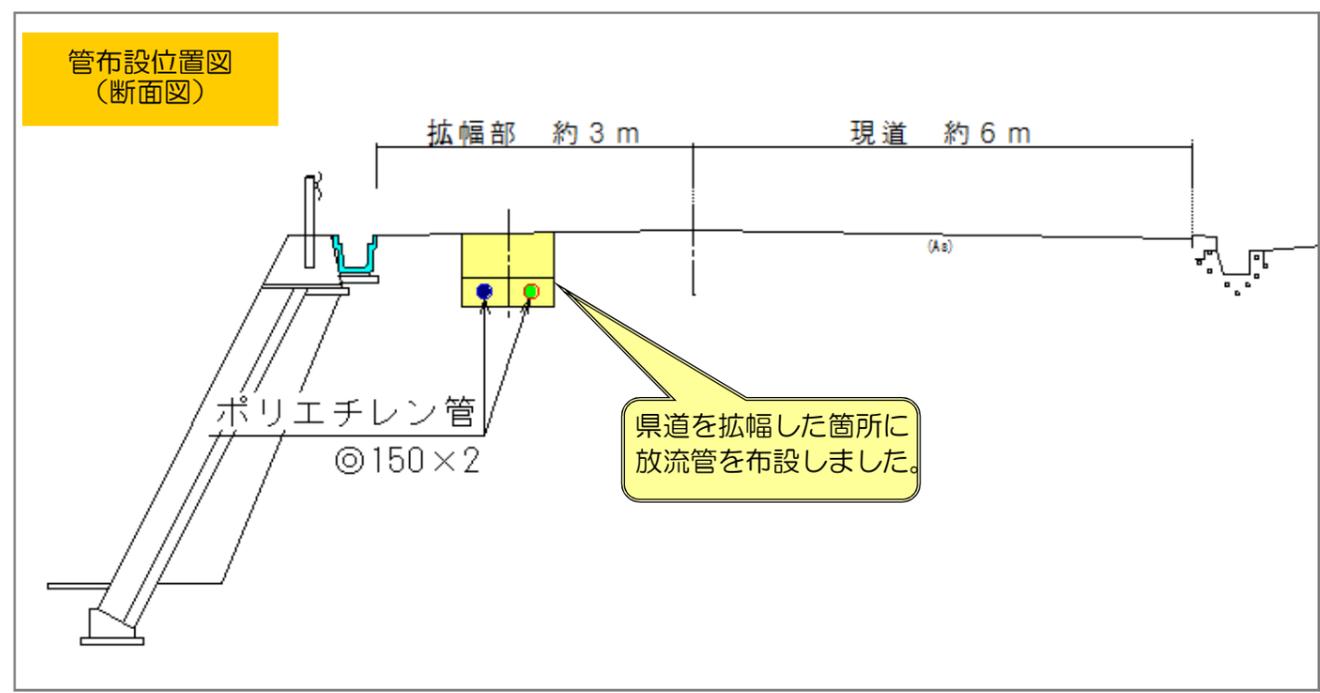
◆気密(真空)試験について
 管路の両端に栓を着け、その管路の中の空気を真空ポンプにより吸い込んで、管路内を所定の負圧状態とします。
 《電気融着接合が不完全であれば、その部分から管の外の空気を吸い込んでしまうため、管内が負圧状態になりません》
 さらに、この状態を1時間保てるかどうか確認(圧力低下が3%以内であることを確認)し、管の水密性を検証しています。

恵下埋立地(仮称)浸出水放流管建設29-1号工事 工事便り

工事は皆様のご協力により完成に至りました。ありがとうございました。



管布設後、拡幅部は仮舗装で復旧し、現道部分は本舗装復旧しました。



【お問い合わせ先】
 施工者：貴土建設 有限会社
 安佐南区高取北4丁目38-12
 TEL (082) 872-3053
 発注者：広島市環境局施設部
 恵下埋立地建設事務所
 TEL (082) 923-6011

【工事の目的について】

埋立地で発生する浸出水を公共下水道へ放流するための管きょ工事です。
管布設完了後、舗装復旧(拡幅部は仮舗装)を行いました。

【管の材質について】

放流管は、酸・アルカリに強くて腐食しにくく、柔軟性に富み、耐震性能に優れたポリエチレン管を使用しました。



ポリエチレン管融着作業中

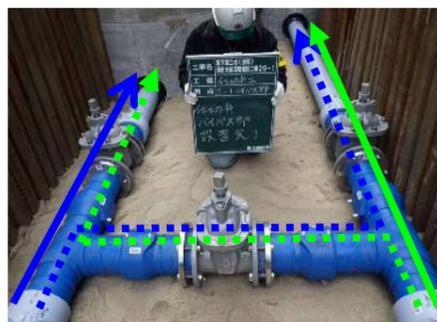


ポリエチレン管融着完了



『バイパス部(仕切弁)』

通常は、左右の管路を自動で交互に使用しますが、弁操作により、管路を任意に選択することもできます。



鉄蓋を開け、専用ハンドルを差し込みそれを廻すことにより弁の開閉を行います。



『点検整備マンホール』

計画的に放流管内の点検が行えるよう、管路は2系統で整備し、伸縮脱着部を設けています。点検は、管内の水を排水用弁から排出させた後に、伸縮脱着部を外し、そこから行います。

